

テ莖ナシ、一根數花、仙臺ヨリ出ル者花多シ、舶來ノ者ニハナシ、
〔和漢三才圖會八十五〕雷丸〇中

按猪苓楓木之餘、雷丸竹之餘、二物共未知、必其然乎、而猪苓自廣東南京福州舶、每年將來、凡至一二

千斤、雷丸自處處唐船及咬啮吧舶所將來、凡至五六百斤、價亦賤、然則中華外國共有之不珍物也、明

焉、然日本朝鮮共竹不少、而雷丸無出、是亦與琥珀之辨同矣、
〔採藥使記上〕照任曰、興州南部大管生ノ土中ヨリ猪苓ヲ産ス、方言ニハギホドト云フ、土ノ上ニ

ハ見ル事マレナリ、山中堤ノ所ヲ掘テ取ル、
光生按ズルニ、和邦ニ猪苓ト稱スル物ハ、ホコリ茸ノ類ナリ、其形尖リ長クシテ華産ノ圓ナル

菌培養

〔農業全書五〕山野菜、菌類

くさびらきこの類、是おほし、山林幽谷に立ながら枯、又はたをれたる朽木などに、自ら生ずる物なり、椎がしなどに生ずる物人に毒せず、此外の木に生るは、みだりに食ふべからず、又園に作るは、楮の木、同葉の肥たるを、濕地の風の吹すかさぬ所にうづみをき、常に米泔をそぎ、うるほひを絶すべからず、五七日過れば、必菌生る物なり、又畠のうねの中に糞を多くふり、楮木を五七寸に切、うちくたき、菜をうゆるごとくにならべ置て、土をおほひ水をそぎ、ながくうるほひを絶さざれば、先初は、小き菌生じ、漸々に大きなるが生ずる物なり、もと楮木なれば、毒にならず、又椎の木の中まではいまだくちす、皮はありて、大かたくちたるを、日かげの風の吹すかさぬ所に、横にねさせ置、むしろこもをおほひ、土より泔水を頻りにかけ、しめり氣を絶さずし置ば、椎茸多く生ずる物なり、他の朽木にも、茸は生る物なれど、木の性によりて毒なり、五木と椎櫃は毒なし、桑槐榆柳楮五木是なり、此外榎木に生ずるは、常に用ゆべし、又楮の古かぶに成て、わか立出ぬあ